

コンポスの活用と普及活動～＃たべるめぐるホテルとめぐる:わプロジェクト～

京都府立農芸高等学校 草花コース 中山 航太郎 井尻 遥 糸林 陽向 井上 直哉 中村 仁美音

目的

SDGsや環境への配慮として、「循環」の考えに立ち、廃棄物を資源として再利用することが注目されていることから、以前より、農芸高校産の牛ふん堆肥を基材としたコンポスの開発とできた堆肥の草花栽培への活用に取り組んできた。

今回の取組では、コンポストとその堆肥を活用を普及し、SDGsへの理解を深め、啓発するため、ホテルと連携した活動に取り組んだ。さらに、近隣の自治体と宿泊施設と連携し、コンポストを通して地域にSDGsの「環(わ)」を広げ、資源の循環や花と緑を広げることを目的に普及活動を進めている。

取組1 #たべるめぐるホテル(都ホテル 京都八条との連携)

取組内容

京都市の「都ホテル 京都八条」と連携し、レストランで出た野菜くずを牛ふん堆肥を基材として、開発・作成したコンポストで堆肥化し、利用する取組「#たべるめぐるホテル」に取り組んだ(図1)。

- 1) エディブルフラワーとして利用できる草花をホテルに提案し、コンポスの堆肥を使って栽培した草花を使用したスイーツをレストランで提供した(図2)。
- 2) 「目で見て楽しむSDGs」として堆肥をホテルの花壇の土に利用し、季節の草花を育てる「#めぐるめぐるホテル」に取り組んだ。
- 3) 小学生を対象にホテルでつくった堆肥を使った花壇の植栽と花の活用を通じて、コンポスの普及やSDGsへの理解を深めるイベント「はちじょう・はぐくむ」を実施した(図3)



図1 ホテルに設置したコンポスト(左)と取組イメージ図(右)



図2 レストランで提供されたスイーツ
左: キンギョソウ、右: ビオラを使用



図3 イベント「はちじょう はぐくむ」
(左: 花壇の植栽、右: カードづくり)

結果(成果)

コンポスの堆肥をスイーツや花壇に利用することによって、ホテルの利用客にコンポストを活用した資源循環の可能性を啓発、普及することができた。取組を通してホテルのスタッフの方のSDGsへの意識が向上したということも成果である。小学生対象のイベントでは、コンポストについて子どもたちに知ってもらうことができた。ドライフラワーを使ったカードづくりを実施したことで、資源としての花の活用についても伝えることができた。

取組2 めぐる:わプロジェクト(亀岡市と京都・烟河との連携)

取組内容

取組1がきっかけとなり、学校近隣の亀岡市と「京都・烟河」とで連携し、コンポストを通して宿泊客や地域に資源の循環や花と緑を広げる「めぐる:わプロジェクト」に取り組んだ(図4)。

- 1) 宿泊施設「里山の休日 京都・烟河」に亀岡市のゴミ処理で出た廃材を活用して作ったコンポスターを設置し、運用を開始した。
- 2) 市民・地域の方を対象にしたコンポスト堆肥を使った花壇の植栽やダンボールコンポスの作成などを行うイベント「めぐる:わフェス」を11月に開催するための企画を進めている(図5)。コンポスト以外にも亀岡地域の資源を活用するため、花壇の木枠には、亀岡市のゴミ処理で出た廃材を用い、植栽に使う花を市民から集めている。



図4 プロジェクト イメージ図

結果(成果)

取組1の活動により、亀岡市と「京都・烟河」との3者で「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」を締結し(図6)、普及活動を進めることができた。「京都・烟河」に作成したコンポストが導入され、施設の農園や庭・花壇に堆肥が活用された(図7)。地域の小中学校から「京都・烟河」へコンポスの学習に来られることもあり、波及効果があった。

イベントの企画の中で、近隣の自治会の協力を得てイベントと活動のPRを進めている。11月23日のイベントでは、地域の方と交流しながら植栽を行ったり、コンポスの普及活動をする企画をしており、地域コミュニティと連携したコンポスの普及活動につながっている。



図5 企画会議の様子(左)とイベントPRチラシ(右)



図6 協定締結式



図7 コンポスト設置と運用

まとめ

取組1・2より、コンポストで廃棄物が資源として生まれ変わることを多くの人に普及することができ、地域にSDGsの「環(わ)」を広げる活動ができた。コンポストで単に廃棄物を削減するだけでなく、堆肥を活用した資源を循環しながら楽しむ園芸を広め、資源の循環や花と緑を広げる活動を今後も進めていきたい。